

講義名	公共政策論			授業形態	
担当教員	楠本 寛	開講期・曜日・時間	後期 火曜日 1 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

主題と概要

公共政策は、社会が抱える様々な公共的問題を解決するための解決の方向性と具体的な手段と定義される。人口減少や少子高齢化など社会にある数多くの課題に対し、公共政策の重要性は高まっている。また、公共政策論はさまざまな学問領域にまたがる幅広い分野である。本講義はできるだけ具体的な事例に触れながら、公共政策を学んでいく予定である。前半部では公共政策学の基礎理論を中心に講義し、一方後半部ではプロセスについて政策決定および評価の方法論を解説するとともに、公共政策のガバナンス（政策管理システム）にも触れる。

到達目標

- (1) 公共政策の捉え方や基本的知識を理解することができるようになる。
- (2) 公共政策の発案・決定・執行および評価といった政策過程（プロセス）について理解することができるようになる。
- (3) 公共政策が与える影響や、結果の有効性を分析することができるようになる。
- (4) これらを活用して、現実起こっている政策問題を理解し、分析することができるようになる。

提出課題

授業内容に関する課題を課す。実施方法（課題提出/授業時間内における演習）はその都度指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

次の授業の際に、全体的な講評や解説を行う。

評価の基準

前半・後半の2回に分けて、授業時間内に確認テストを実施する。確認テストの成績を70点、平常点（レポート課題など）を30点、合計100点満点で評価する。

履修にあたっての注意・助言他

積み上げ型の授業であり、毎回出席することが重要である。授業内容は日常生活に関連するものが多く、課題演習に取組みながらその内容をきちんと理解してもらいたい。そのため、授業への出席と積極的な学習態度を奨励する。定期試験は実施しない。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

授業の際にプリントを配布する。参考文献があれば、授業時間に紹介する。

授業計画

- 1 ガイダンス 公共政策とは何か
- 2 公共政策の目的、なぜ公共政策が必要か
- 3 政策課題の検討
- 4 政策問題の構造化
- 5 公共政策の手段
- 6 公共政策の規範的判断
- 7 政策決定と合理性
- 8 前半部テスト 前半部の講義の確認
- 9 費用便益分析
- 10 公共政策の決定
- 11 公共政策の実施
- 12 公共政策の評価
- 13 公共政策管理システム（1）
- 14 公共政策管理システム（2）
- 15 後半部テスト 後半部の講義の確認

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業の内容はできる限り授業中に理解することが望ましいが、授業の内容を確認し理解を深めることを目的とした課題を課す。このため、授業内容の復習と課題への取組に週2時間程度を充てる必要がある。また「公共政策」は、日常生活に身近なところで行われている。毎回の講義で学んだ知識をもとに、週2時間程度、関心をもって自分の周りの公共政策に目を向け、講義内容の理解を深めることを期待する。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本学のディプロマ・ポリシーに記載された「経済学部・経済学科の学生が卒業時に身につけておくべき資質・能力」のうち、次の項目に関連する。人間、社会、自然に関するこれまでの学問的取組の基礎を身に付け、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察し、課題を提案することができる。経済学を基礎として、複雑化する地域社会で生じる問題を読み解き、解決策を提案することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

実務経験あり 現場の具体例などを授業の中で紹介する。

備考